

# 令和4年度 自然保育推進事業 活動報告書

## 1、団体名

社会福祉法人みどり会 みどりの森ようこう保育園（広島県廿日市市陽光台5丁目1番地）

## 2、今年度の活動概要

コロナウイルスの影響による自粛や制限が時間の経過とともに緩和されていき、徐々に元の生活が戻ってきました。年長クラスを中心に園庭での畑づくりをし、収穫した野菜を味わうことで喜びを感じました。また、全クラスを通して土や泥、水に触れて遊ぶことを日常の中で楽しみました。

裏山では様々な自然物に触れることができました。その中で、色の変化に気づき、匂いを嗅ぎ、音を楽しんでいた子どもたち。五感を使いながら遊ぶことは、脳を刺激し、感覚を発達させていきます。また、山あそびを通して自発性・創造性を育てていきたいと願い、乳児から積極的に山あそびを日常に取り入れていきました。季節ごとに変化していく自然を楽しむ中で、子どもたちの気づきや発見に耳を傾けながら共感することを大切にしてきました。

## 3、活動内容

1歳児クラス、2歳児クラスの子どもたちも裏山や周辺の山での散歩を楽しみました。山には不安定なでこぼこ道や斜面、そしてたくさんの段差があります。乳児組のころから山道を歩くことで安定した体づくりをねらいにしていたのですが、山あそびを通して体だけでなく心の成長も見えてきました。その様子についての活動報告をします。

### 【1歳児たけのこ組の山あそび】



1歳児たけのこ組は春から夏にかけて園の周辺散歩を楽しみ、しっかりと歩く力をつけてから、秋ごろに山あそびに行くようになりました。最初は不安定な道をゆっくり慎重に歩いていた子どもたち。大きな木が倒れているのを見つけるとさっそく『バスごっこ』が始まりました。保育者や友だちの姿を見て、模倣しながらあそびを少しずつ広げていきました。





冬ごろになると、足腰の力や体幹が強くなった分、子どもたちの遊び方が大きく変化していきました。『やってみたい!』『じぶんもする!』と元気いっぱい山で駆けまわります。ダイナミックな動きも増え、木の根っこをしっかりと握って足を踏ん張りながら斜面を登ったり、自然の滑り台を楽しんだりする様子は意欲に溢れていました。

## 【2歳児りす組の山あそび】



2歳児りす組は一年間を通して山あそびを楽しみました。急な斜面も『どうやったら登れるかな?』と考えながら体をうまく使う姿が増えました。“友だちと一緒に”が楽しくて、「おもしろいね」「もういっかいのぼろう!」とやりとりをしながら遊ぶ様子がありました。





10月の運動会を終え、友だちとの関わりがより深まったころ、山あそびをする中で自然と子ども同士が助け合っている姿が見られ始めました。斜面の下から登ろうとする子に対して木の棒を差し出し、「これにつかまって！」と声を掛けあったり、高い段差に戸惑っている友だちがいたら、「いっしょにいこ」と手を差し伸べたりする姿から、相手の思いに寄り添うことのできる心の育ちを実感できました。



2月に自然保育アドバイザーの菊間馨先生に来ていただき、速谷神社までの道のりで山あそびを楽しみました。季節ならではの自然物(冬芽やウラジロ、キノコなど)を教えてもらい、子どもたちは興味津々。「これはなあに？」と色々な自然物に興味をもって菊間先生に聞く姿がありました。いつもは通り過ぎてしまう道も、この日は何度も立ち止まりながら植物や木の実に目を向けていました。

また、今まで知らなかった自然物の知識や遊び方を菊間先生に教えていただくことで保育者もあそびの幅を広げることができました。





この日から、山に行くと自然のお土産を持って帰ってくるようになりました。「これひこうきになるんよ」「おっきいはっぱ、みつけたよ」と事務所まで持ってきて保育者に見せてくれます。自然のおもしろさを知った子どもたちは、自然物を何かに見立てたり、イメージして遊びを膨らませたりと、発想力をつけていきました。

#### <乳児クラスの山あそびを通して…>

日常的に山の中であそぶことを楽しんだ1, 2歳児クラス。人工的に作られた環境ではないからこそ、自分で考えたり、友だちに手を貸したりする様子が多く見られるようになりました。子どもにとって自然はいつも刺激的で、あそびに行くたびに新しい発見がたくさんあります。目を輝かせながら遊ぶ姿は好奇心、創造力で溢れていました。乳児期のあそびが今後の子どもたちの自信や学びへの意欲に繋がることだと思います。これからも山あそびを通して健康な体、豊かな心を育んでいきたいです。